

企画・制作/(株)宣通
TEL.(052)979-1602

広告

教えて!! ドクター Q&A

Q 弁膜症に対する足の付け根からのカテーテル手術について、詳しく教えてください。

A 高齢化に伴い心不全が増加し、世界の心不全患者数は3000万人に迫る勢いで、心不全パンプデミックとも呼ぶべき事態になってきています。日本でも2030年には130万人にも達すると推計され、100万人といわれる癌患者を抜くという予測もあります。

心不全の原因として加齢による弁膜症も増加し、特にリウマチ性病変は激減し、動

脈硬化性の大動脈弁狭窄症や変性性の二次性(機能性)の僧帽弁閉鎖不全症が増加してきています。弁膜症は重症になってもあまり症状がないため診断されず放置されている人や、診断できても高齢で他の合併症のため手術を受けられない患者さんも多く、例えば、大動脈弁狭窄症の推定患者数は約100万人ですが、その中でも1%程度しか手術が行えていないのが実情です。

このように高齢化に伴い手術の低侵襲化が求められる中で、最近、局所麻酔でカテーテルと呼ばれる細い管を使って、大動脈弁狭窄症には人工弁を留置する「経カテーテル大動脈弁留置術(TAVI/トタビ)」や、僧帽弁閉鎖不全症にはMitral Clip(マイトラクリップ)というクリップ状の装置を使って、弁をつまんで逆流を止める「経カテーテル僧帽弁

クリップ留置術」が行えるようになり、患者負担が少なく、入院期間は短く、社会復帰も早まってきています。

超高齢化社会でますます増加する心不全の原因である弁膜症に対し、低侵襲のカテーテル治療も有用な選択肢の一つとなってきました。今後は手術技術の進歩に伴い、患者選別の精度、手術の適応も拡大されること期待されるでしょう。

神戸大学医学博士。日本循環器学会循環器専門医。神戸大学病院や民間病院で20年以上多数の心臓ペースメーカーやカテーテル手術をはじめ、生活習慣病や人工透析にも携わる。現在は、専門分野である循環器・呼吸器疾患を中心に、地域のかかりつけ医として幅広い年齢の患者様を診療する。



北村内科クリニック
理事長 北村 秀綱